

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書【令和4年3月7日現在】

1 / 2

団体名	おたるエデュケーション		
事業名	小樽のまちに学びの場と機会を作ろう 2021		
実施期間	令和3年9月～令和4年3月		
事業の目的及び期待する効果	<p>令和元年度の不登校児童生徒は小学生46名、中学生112名、合計で158名となり、その前の年より19名増となりました。形式卒業し、高校に進学しても再び不登校になるケースも多いですし、高校から不登校になる生徒もいます。全国各地の「登校支援室」では、定期的に通級している児童生徒は全国平均で12%と言われ、小樽市も同じような状況にあると思います。</p> <p>新型コロナウイルスによる休校以前より、学びの多様化は年々増えていきましたが、新型コロナウイルスの影響により、更にそのスピードは加速しました。ここで気になったのは学習面に対するものばかりが目立ち、様々な影響から心のケア等が必要な子ども達への支援の不足を活動を通して実感しています。「休むことを良し」としない日本社会の風潮により、学校に行けないことで自己肯定感が低い子ども達が多く存在しています。自己肯定感が低いのはコロナ以前から世界的にみても日本での低さは課題とされています。そのようなことから不登校児童生徒は学校に行っていない状態だけでお友達と遊んだりする機会も奪われ、他者との交流の機会も少なく、家庭及び家庭以外に居場所がないケースが多いです。そのため、おたるエデュケーションでは家庭以外で安心できる居場所を用意し、自ら学び、自立していくためのサポートを目的としました。家庭・学校以外の第3の居場所で小集団での交流や子どもらしく遊べる楽しさを体験し、自分らしさを見つけることで自己肯定感が徐々に上がり、自ら学び、自立していくことにつながっていくと期待します。</p>		
実施額	事業費	98,839 円	助成額 98,839 円
事業内容	通信参照		

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

○事業の日程について

2 / 2

実施時期	実施内容	想定している事業 (参加者数等)	事業効果 (実績)
10月～2月	居場所づくり～真栄会館・月1	10名×5回＝50名	4回/24名
10月～2月	課外体験～いなきた体育館・月2	10名×10回＝100名	5回/33名
11月	ボランティア研修会	15名	中止
2月	子どもの学び体験	10名	中止

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

前年度同様、コロナウイルスの影響があり、ボランティアや市民参加を思うように増やすことができなかった。ボランティア研修はまん延防止措置等で講師の方々自身も予定延期等で調整が難しく2年連続の中止となった。子どもの学び体験も2/5に共催イベントとして雪遊び等の企画をしていたが、まん延防止措置により中止が決定した。

居場所づくりは毎月第3木曜日に真栄会館と月2回のいなきた体育館を継続している。今年度も新規の子ども達の利用があったが、市外へ転校したり、子どもだけでは来られず、タイミングが合った時のみ参加になっている。思春期に入り、あまり来なくなったり、逆に落ち着いてきて久しぶりに参加することが増えたりと利用の仕方は様々である。参加人数だけ見ると少ないが、第3の居場所として小集団交流や子どもらしく遊べる環境は見えてやって良かったと毎回感じられる事業となっている。たるエデュ通信も市内小中学校には配布させていただいているが、「休むことを良しとしない風潮」が根強く、必要な家庭に届けてくださる学校は少ないのが現状である。ただ、教育委員会は不登校対策連絡協議会にお招きくださり、学校以外の第3の居場所として捉え、周知しようとしてくれていることも共通理解している。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

・前日から楽しみにしている。次はいつ?もう終わり?などの声も聞かれ、参加者の満足度は高いと思われる。・安心して自由に過ごすことができるよう心掛けているため、それぞれであったり、小集団、時には全員でと楽しんでいる様子も伺えた。・ボランティアさんからはこういった機会があることで自分も学ばせてもらい、貴重な時間を過ごせているとの言葉が聞かれた。・市民参加では日々の忙しさからの息抜きに短時間利用でのリピートあり。お話ししたり、参加者と遊び、家での遊びの参考にもしていた。・周囲からはこういった場は必要だね。全国各地に沢山増えているよね等、肯定的な声が聞かれた。

3. 今後の事業について

不登校児童生徒はコロナ騒動前からずっといるが、それに加え、昨年度同様、コロナ禍で子ども達の不安、ストレス等は様々な形で増え続け、不登校ひとつとっても増加は顕著である。今、不安の緩和やストレス解消ができないまま、日々頑張っていると数年後にSOSが出てくる可能性は大きく、非常に危惧するところである。

このようなことから今年度のたるエデュ通信は家でも活用できるよう、子どものSOSや気持ちの発散の対処法、幸せについて等を専門家の声や研究結果を紹介しながら、より多くの方々に伝わりやすい内容になるよう工夫した。その結果、市内高校教諭から大変勉強になると連絡を受けたり、こんなこと全然知らなく勉強になったと言われることもあった。

また、不登校に限らず孤独を抱えるみなさん、自主保育できる家庭は、登園自粛要請で親子でストレスを抱える等多世代でも様々な影響があった。元々、おたるエデュケーションは多世代交流を考えていたので、そのような方々も希望があれば受け入れ、温かい気持ちになる活動日もあった。

このように必要と感じてくださる方々がいるので、まだまだ世が落ち着くのは先であると想定し、この3年間のノウハウを活かしながらこの活動を続けていきたいと考えている。

4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関しての要望事項等

本会の事業を採択くださり、ありがとうございました。コロナ禍に加え、担当部署変更と大変であったこととお察し致します。そんな中、様々な質問にも調べて返答くださったりと感謝しております。おたるエデュケーションは会の特性上、冬季間の会場利用(特にいなきた体育館)は継続できると有難いと考えています。どのようにしたら減免対象になる等ご教授いただくと幸いです。